

教材名：きみとともに

授業者 山下 真一

目指せ最高の赤船祭 ～美しい合唱を私たちでつくり上げよう～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 曲想と音楽の構造との関わり, 創意工夫を生かした音楽表現

1 日 時 令和6年9月25日(水) 12:30～13:20

2 学 年 第2学年2組 (男子15名 女子15名 合計30名)

3 場 所 本館3F 音楽室, 多目的教室

4 単元について

○ 教材観

本教材は、中学校学習指導要領音楽〔第3学年〕A表現(1)歌唱の歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること、イ(ア)曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり、ウ(イ)創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能、を指導事項として位置づけ、〔共通事項〕のうち、テクスチュアに関連させながら指導していく。

テクスチュアとは、音楽における音や声部の多様な関わり合いのことである。本題材では、不安や悩みを抱えながらも希望をもって友と未来へ進んでいこうとする祈りを表す歌詞が、声部の使い分けや重なり、和声の工夫で色彩豊かに表現されている。音や声部の関わり合いや和声の変化がどのようなイメージを生み出すのかを感じ取り、自分たちの歌唱表現を創意工夫していくことが期待される教材である。

○ 生徒観

本学級の生徒は、明るく活発で、自分の意見に自信を持って発言することができる。一方で、発問について深く考えて文章化することを苦手とする生徒がみられる。また、じっくりと課題に向き合いより深く考えることが難しい生徒が多くみられる。

事前アンケートの結果では、「音楽の授業が好きである」「歌唱の授業が好きである」という項目に、89%の肯定的な回答がある。本校では昨年度、「歌声のリボーン」として歌唱の取り組みを行ってきたが、音楽の授業などで歌うこと、みんなで合唱することは楽しいと感じている生徒が多い。また、「歌う時に歌詞の内容や情景をなどのイメージをもって歌っている」という問いには72%の肯定的な回答があり、歌詞から情景などをイメージして、自分なりに表現を創意工夫しようとしている姿も見られる。

一方で、「パートの役割を考えながら歌っている」には52%、「他のパートの響きなどを聴きながら、歌い方を工夫している」という問いには38%の肯定的評価しかなく、音や声部の重なり方や響きを感じ、歌唱表現を創意工夫できている生徒は少ない。美しい合唱を作るためには一生懸命、楽しく歌うだけでなく、周りの声との調和や響かせ方などを感じ、表現の工夫をすることも大切であると気づかせたい。

○ 指導観

本校では、赤船祭文化発表の部をコアカリキュラムの1つとしており、今年度は縦割り集団での合唱と、学年合唱に取り組むことになっている。「達成感・憧れ感・一体感」を生み出し、生徒が「一生懸命はかっこいい」と感じることで、先輩の歌声を目標とし、伝統を引き継いできた。昨年度は1年生として、憧れ感をもって学年合唱に取り組んできたが、2年生となり、後輩から憧れられるような歌声を目指す意識を持たせて学習に取り組ませたい。

また、テクスチュアに注目させ思考・判断の拠り所とすることで、ただ声を出して歌うだけではな

く、音の響きや重なりから発声の方法や表現を工夫する合唱の奥深さに触れさせたい。自分一人で歌うのではなく、みんなと合わせてアンサンブルすることの難しさや楽しさを感じさせ、一体感を感じられるように指導していきたい。

また、第2学年及び第3学年の目標に示されているように、ただ自分たちのやりたい表現をするだけでなく、多くの人が共通で感じ取れるこの曲ならではの良さを知覚させ、曲にふさわしい歌唱表現を考えさせることに留意して指導していく。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 （自己を認識する力、 自分の人生を選択する力）	コミュニケーション能力 （表現する力）		
	レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。
	レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。
	レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。
	レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、（大人の力も借りながら）自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。		

6 題材の目標

（1）曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。

【知識・技能】

（2）テクスチュアを知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。【思考・判断・表現】

(3) 声の音色による旋律の雰囲気の違いや、声部の重なりによる声の響きの違いに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組むとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。【主体的に取り組む態度】

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【知識】 ・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクスチャを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声の音色による旋律の雰囲気の違いや、声部の重なりによる声の響きの違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。

8 指導計画（全3時間）

教科・領域の本質的な問い

合唱をすることの良さは何だろう。

時間	<div>学習課題</div> <div>ねらい</div> <div>指導内容</div>	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
1	<div>学習課題：～感動の縦割り合唱を～情景を考えながら歌おう。</div> <div>ねらい：曲想と歌詞の内容の関わりを理解する。</div> <div>歌詞の内容や楽譜から作詞・作曲者の想いを読み取り、各パートで音取りをさせる。</div>	知		<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想から感じ取ったことをもとに曲に対するイメージを持つ。 	
2 本時	<div>学習課題：～感動の縦割り合唱を～パートの役割を生かして、もっと美しい合唱を作ろう。</div> <div>ねらい：音や声部の重なりが生み出す響きを感じ取り、歌唱表現の仕方について思いや意図を持つことができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに分かれ、よりよい歌唱表現を考えさせる。 ・楽曲の持つ音楽の特性を知覚し、それらの生み出す特質や雰囲気から歌唱表現を創意工夫させる。 	思 判 表	○	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの役割や声の重なりに着目し、声部ごとに試行錯誤しながら歌唱表現を創意工夫する。 	思・判・表 〔行動観察・ワークシート〕

3	<p>学習課題：～感動の縦割り合唱を～ 感動の合唱を作り上げよう。</p> <p>ねらい：声部の重なりによる響きの違いを味わいながら、合唱に主体的に取り組む。</p> <p>表現の工夫をまとめ、合唱する。</p>	態	○	<p>声の音色による旋律の雰囲気の違いや、声部の重なりによる声の響きの違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。</p>	<p>技 主体 [行 動 観 察・ワーク シート]</p>
---	--	---	---	--	--

9 本時の展開

(1) 本時の目標

音の重なりによる響きの違いを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持つことができる。

(2) 本時の評価規準と生徒記述の例

テクスチュアを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。

例：ソプラノパートは主旋律なので、他のパートに埋もれないようにはっきりと歌いたい。

男性パートはハーモニーの支えになるから、深く温かい音色で歌いたい。

(3) 準備物

・教科書・クロムブック

(4) 本時の流れ（2時間目／全3時間）

過程	<input type="checkbox"/> 学習活動 <input type="checkbox"/> 教師と <input type="checkbox"/> 生徒のやりとり	指導上の留意事項（○） ・予想される生徒の反応（・）	評価規準〔観 点〕 ★資質・能力 【評価方法】
1 前時までの復習 [5分]			
	<input type="checkbox"/> 発声練習で「校歌」を歌う。 <input type="checkbox"/> 「きみとともに」を歌唱する。 ・歌詞の内容や楽譜中の記号を適宜確認しながら歌う。	○良い姿勢・発声を意識して歌うことを確認する。 ○必要に応じて、パートごとに音を確認しながら自信をもって歌えるようにする。	
2 課題の確認 [5分]			
	<div>ねらい 音や声部の重なりが生み出す響きを感じ取り、歌唱表現のしかたについて思いや意図を持つことができる。</div>		
	<div>学習課題 ～感動の縦割り合唱を～ パートの役割を生かしてもっと美しい合唱を作ろう。</div>		
	<input type="checkbox"/> 3声に分かれる部分「この空の～」からパートの役割や音の重なりを生かして歌えるように学びを深めていくことを確認する。		
3 表現の工夫を探求 [30分]			
	【美しい合唱のイメージを持つ】10分		

	<p>□N コンの中学生の合唱と自分たちの合唱を鑑賞し、違いを聴き比べ、美しい合唱のために何が必要かイメージを持つ。</p> <p>教師 この(N コンの)合唱は聴いて、どう思う？</p> <p>生徒 美しい。まとまっている。</p> <p>教師 そう感じたのはなぜ？どういうところが美しいと感じたの？</p> <p>生徒 声の響き。主旋律を支えるハーモニーのバランス。</p> <p>教師 じゃあ(自分たちの合唱)はどう？</p> <p>生徒 まとまってない。主旋律が聞こえない。</p> <p>教師 じゃあどんなことに気を付けて歌えば美しく聞こえるかな。</p> <p>【話し合い・練習】12分</p> <p>□パートの役割を生かして歌うにはそんな工夫をすればいいか、聴く人にそれが伝わるようにするにはどうするかを具体的に話し合い、歌いながら試していく。</p> <p>□他のパートの音源を聴いたり、楽譜をみたりして、音の重なりやパートの役割を確認しながら試していく。</p> <p>【他のパートと交流】8分</p> <p>□録音した音源を持ち寄り、お互いに聴き合い、自分たちの工夫が聴く人に伝わるのか、確認する。</p> <p>□他のパートの工夫を知り、自分たちの表現に生かす。</p>	<p>○班で意見を交流させる。</p> <p>○音の重なりや各声部のバランスに特に注目させ、後のグループワークにつながるような発問をする。</p> <p>○次のポイントを押さえるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律は他のパートに埋もれないように ・ハーモニーは主旋律を支える ・音を伸ばしているとき、他のパートは何をしているか <p>○グループに分けて活動させる。(S, A, T①, T②)</p> <p>○他のパートの音源等もすぐに聞けるように、各パートの音源を準備しておく。</p> <p>○クロムブックを使って録音しながらすぐに確かめられるようにしておく。</p> <p>○パート練習の最後に、成果を録音させる。</p> <p>○録音を聴き、班で、良いところや改善点を話し合う。</p>	<p>・歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図を持っている。</p> <p>【ワークシート・行動観察】</p>
	<p>4 振り返り【10分】</p>		
	<p>□他のパートとの交流を踏まえて、自分たちの表現をもう一度確認し、合唱する。(録音)</p> <p>□振り返りの記入</p>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	評価規準
B（おおむね満足できる）	テクスチャを知覚し、音や声部の関わり合いを感じながら曲想にふさわしい発声の仕方や表現を創意工夫している。
C（努力を要する）	発声の仕方や表現を自分なりに創意工夫している。